

事例4

< 事例概要 >

- ・ 50 歳代、軽症血友病がある頸椎後縦靱帯骨化症の患者。
- ・ 頸椎前方固定術（C5/6）を施行。手術時間は約1 時間半。術中出血量は約20 mℓ、手術終了後に抜管。
- ・ 病棟帰室3 時間後より喀痰著明。約10 時間半後、喀痰著明で吸引。息苦しさを訴え、痰のからみが続き、吸入すると落ち着いた。約20 時間後にドレーンを抜去し、皮下出血を認めた。清拭中に発汗著明で気分不快、自己喀痰不可となった。吸引したところ呼吸停止。気管挿管、輪状甲状間膜穿刺を試みたが困難。気管切開術の際に多量の凝血塊を認め、除去後に気管を同定して気道確保したが、翌日死亡
- ・ 死因は、気道閉塞。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。